

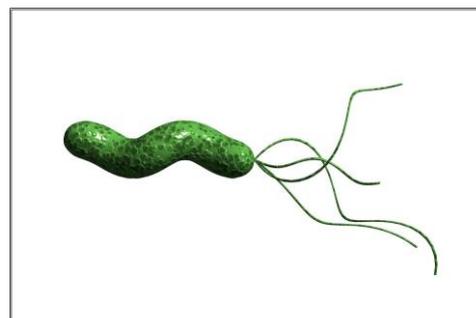
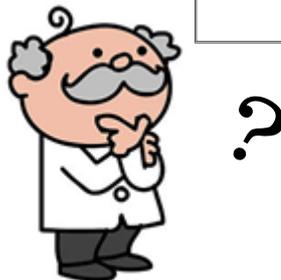
ピロリ菌と除菌の話

医療法人 小金井中央病院
副院長 和田 伸一

「ピロリ菌とは」

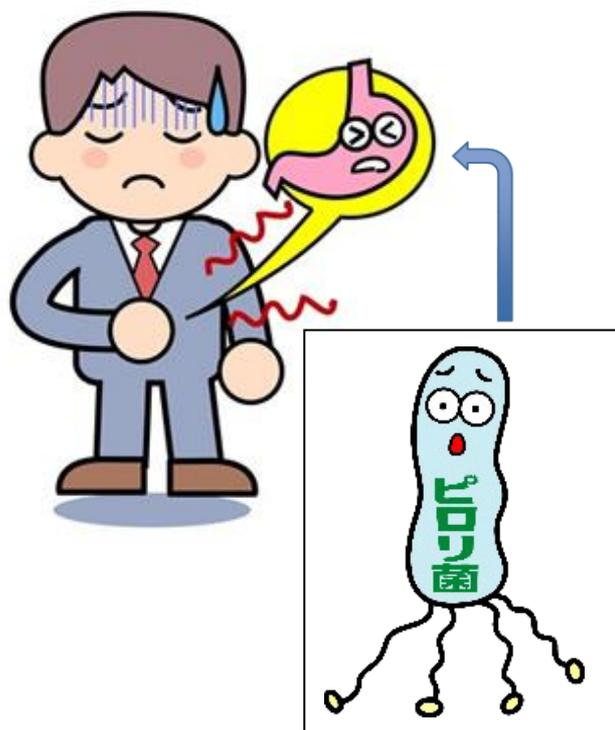
正式にはヘリコバクター・ピロリ (*Helicobacter pylori*)
と言い、胃粘膜表層に棲み着いています。水や食品から感染
すると考えられています。

実は100年以上前から存在を知られて
いましたが、60年ほど前に当時の偉い先
生が「そんなものはおらん」と言ってから
忘れられていました。25年前にヒトへの
感染と病原性が証明され（後にノーベル賞
受賞）、病気との関連がわかってきました。



「ピロリ菌と病気」

胃潰瘍と十二指腸潰瘍の患者さんは、ほとんどがピロリ菌に感染しており、ピロリ菌を駆除（除菌）すると潰瘍が再発しなくなります。ピロリ菌が棲んでいると、慢性萎縮性胃炎が進行します。萎縮した胃粘膜からは胃癌の発生が多いと考えられています（早期癌を治療した患者さんを除菌すると、新たな発癌が少なくなりました）。慢性胃炎の患者さんも平成25年3月から保険治療が行えるようになりました。その他、ある種のリンパ腫や血小板減少症との関連がわかっています。



「除菌治療」

ピロリ菌を殺すための抗生物質を2種類と、効き易くする為に胃酸を抑える薬を朝夕2回、1週間飲み続けてもらいます。除菌が成功しなかった場合には、抗生物質の組み合わせを変えて再治療ができます（二次除菌）。内服終了から1カ月以上あけて、除菌が成功したかどうか判定します。当院では便検査で判定しています。

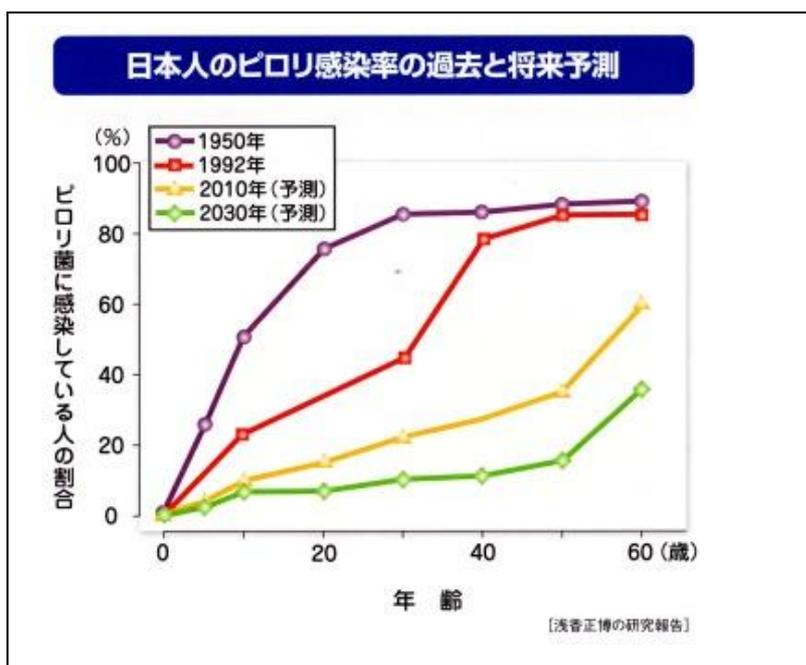


「除菌の成功率」

ピロリ菌の中には抗生物質に強い菌があり、栃木県では一次除菌の成功率は80%前後、二次除菌の成功率は90%前後で、二次除菌まで受ければ98%の人が除菌に成功します。

「除菌の副作用」

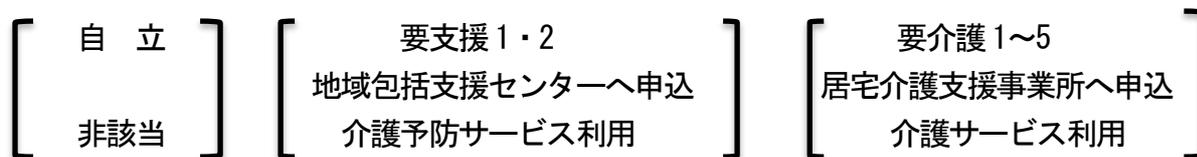
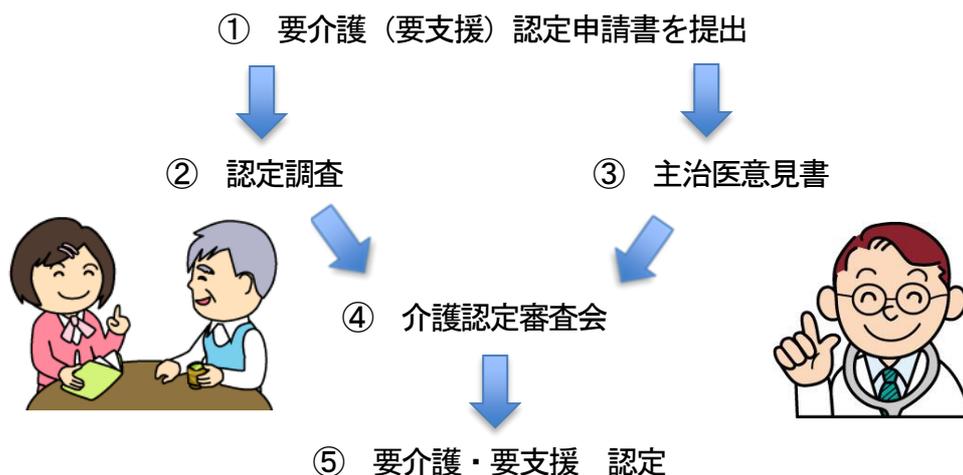
服薬中、腸内細菌のバランスが崩れ、下痢を起こす事があります。薬によるアレルギーや肝機能障害を起こす事があります。除菌が成功すると胃粘膜が元気になります。胃酸が増えて、胸やけを起こす事があります（逆流性食道炎）。食欲が増して肥満になったり、コレステロールが高くなる事があります。



介護保険サービス利用とケアマネジャーのお仕事 (介護支援専門員)

医療法人 小金井中央病院
居宅介護支援事業室 介護支援専門員 中山 千恵子

要支援・要介護認定申請の流れ



- ① 市役所に要介護（要支援）認定申請書を提出します。
- ② 自宅に調査員が訪問し調査を行います。
- ③ 市役所から主治医に主治医意見書の依頼があります。
- ④ 認定調査内容と主治医意見書をもとに介護認定審査会で要介護・要支援区分が決まります。
- ⑤ 要介護・要支援区分では自立（非該当）・要支援 1～2・要介護 1～5に分かれています。

要介護・要支援区分のサービス利用について

- 自立** : 介護保険サービスは利用できません。
- 要支援 1～2** : 地域包括支援センター、または居宅介護支援事業所へ申込をして担当者と相談しながら介護保険サービスを利用していきます。
- 要介護 1～5** : 居宅介護支援事業所へ申込をして担当ケアマネジャーと相談しながら介護保険サービスを利用していきます。

予防介護・介護サービス（ケアプランを作成しサービス利用する）

在宅サービス

- 通所サービス（通所して利用する）
 通所サービス（デイサービス）
 ・通所リハビリテーション（デイケア）

ショートステイ（短期間入所する）

- ・短期入所生活介護
- ・短期入所療養介護

訪問系サービス（訪問を受けて利用する）

- ・訪問介護（ヘルパー）
- ・訪問入浴介護
- ・訪問リハビリテーション
- ・訪問看護
- ・居宅療養管理指導

住環境を整える

- ・福祉用具貸与
- ・福祉用具販売
- ・住宅改修費支給

施設サービス（施設に入所する）

- 特別養護老人ホーム
- 老人保健施設
- 介護療養型医療施設



地域連携

居宅ケアマネジャーは介護に関する相談に乗り、公正中立に適切なサービスが利用できるように支援します。サービスが利用されてからは、可能な限り住み慣れた家で自立した生活を送ることができるように多種多様な機関と連携をとり支援していきます。

